



健康社会学研究会

ニュースレター No.68

発行：健康社会学研究会

事務局：〒164-8530 東京都中野区中野 4-21-2 帝京平成大学 現代ライフ学部 人間文化学科 (担当 森川洋)

TEL 03-5860-4586 FAX 03-5860-4945 E-mail : h.morikawa@thu.ac.jp

ニュースレター NO.65/2013年6月 編集担当：高澤みどり

平成 25 年度総会の開催～出席と委任状提出のお願い

平成 25 年度総会を 7 月 6 日 (土) の第 49 回健康社会学セミナー終了後に開催します。
同封の総会議案書をご持参の上、ご出席ください。

なお、ご欠席の方は、お手数をおかけしますが 7 月 4 日 (木) までに同封用紙にて委任状を事務局まで郵送いただくようお願い致します。

健康社会学研究会 代表 松岡正純

第 49 回健康社会学セミナーのご案内

日時：平成 25 年 7 月 6 日 (土) 13 時 30 分～17 時 (受付 13 時～)

場所：帝京平成大学中野キャンパス 910 教室 (9 階)

参加費：会員無料 非会員 2,000 円

テーマ：Healthy Public Policy から Health in All Policies へ

基調講演：藤野善久 (産業医科大学公衆衛生学講座 准教授)

タイトル：HIA の価値とその有用性 -Health in All Policies を考える-

シンポジスト：

① がん教育の HIA

助友裕子 (日本女子体育大学 准教授)

② 北九州地域を中心とした HIA のこれまで

原 邦夫 (帝京平成大学 教授)

③ 大牟田市の職員研修の取組み

渡辺裕晃 (大牟田市職員厚生課)

コメンテーター：藤野善久 (産業医科大学 准教授)

◆セミナー終了後、同会場にて平成 25 年度総会を開催いたします。

◆総会終了後、中野駅周辺で懇親会を行います。ぜひご参加ください！

第 48 回健康社会学セミナー報告

多様な機関の連携によるコミュニティ形成過程にせまる
—新たな社会課題に立ち向かう実践者達の挑戦—

平成 25 年 2 月 23 日（土）、日本子ども家庭総合研究所において第 48 回健康社会学セミナーが開催されました。本セミナーは、厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「学童を対象としたがん教育指導法の開発およびその評価」研究班（研究代表者 助友裕子）との共催で行われ、講師含む総勢 22 名の参加者がありました。

健康社会の実現に近づくために、様々な地域で新たな社会課題の解決に取り組む実践者達の挑戦に焦点をあて、本セミナーでは、2012 年 6 月に閣議決定された第二次がん対策推進基本計画において新たに取り組むべき課題であるとされた「がんの教育」を事例として、新たな事業に先進的に取り組んでいる 4 つの地域の取り組みが紹介されました。

まず、第 1 部の基調講演では、当事者の立場から単なる疾病教育を超えた人権教育ともいえる「いのちの授業」に取り組んでいるがん患者会 NPO 法人がんサポートかごしま理事長の三好綾先生から「がん患者が学校で語る「いのちの授業」ができるまで」をご紹介いただきました。鹿児島県健康増進課を通じて県教育委員会へ足を運び、様々な関係者の協力を獲得しながら事業化された経緯をお話しいただきました。「いのちの授業」の一部もご披露くださり、先立たれた仲間の「いのちのバトン」を私たちにもおすそ分けいただき、会場が温かな気持ちに包まれたのが印象的でした。

次に、第 2 部では、斉藤恭平先生（本研究会運営委員、東洋大学ライフデザイン学部教授）の座長のもと「新たな試みにどのように挑んだかーがんの教育をめぐる事例をもとにー」と題したシンポジウムが行われ、3 名のシンポジストからそれぞれの取り組みをご紹介いただきました。

まず、保健所の立場から、松本承子先生（荒川区健康推進課係長）より荒川区保健所健康推進課が取り組んでいる出前授業「がんのこともっと知ろう」について関係者との連携で意識されたことを中心にお話いただきました。保健行政の取り組みであるため、事業が区内に急激に浸透するわけではないけれども、学校長の心強い理解を得ながら、確実に事業の重要性が浸透していることの現状と課題について解説くださいました。

次に、教育委員会の立場から、細山貴信先生（豊島区教育委員会指導主事）より豊島区の「がんに関する教育」事業について、実施主体となる主要団体の調整・根回しに奔放された活動秘話をご紹介いただきました。一見、トップダウンにみえた豊島区の施策も、草の根的な活動を大切にされていたことが細山先生からのお話でよく分かりました。当該事業が最後に落ち着いた決め手は、平成 20 年に改定された文部科学省学習指導要領の中で「地域の様々な保健活動」を知るという項目が追加されたことにあり、当該事業をそこに位置づけようとしたことでした。保健活動に携わる方にはぜひ知っておいていただきたいことですね。

さらに、パブリックリレーションの立場から、増田英明先生（株式会社電通パブリックリレーションズ プロジェクト・マネージャー）に、荒川区ならびに豊島区の活動、さらに

国のがん教育の動向を多角的な視野から解説していただきました。パブリックリレーション（＝PR）とは、人と人をつなげて何がよいのか考えるという日常生活そのものであること、「情報」という文字には「情け」が入っている、ということをも2つの研究班の事例を取り上げて具体的に解説くださいました。

本セミナーが主眼としていた多様なパートナーの連携について、各取り組み事例から具体的な構築プロセスを学ぶことができました。最後にまとめと提言として、斉藤恭平先生より、「教育の対象となっている子どもの中でも、すでに学んでいる子どももいる（例えばがん患者である親の姿をみてきた子ども等）ため、そのような子どもの視点も必要では」というご指摘をいただきました。パートナーに、当事者が入ることの重要性を、健康社会学的な視点として心に留めておきたいと再認識いたしました。

（文責 助友裕子 健康社会学研究会運営委員）

新入会員紹介

大木和子（昭和女子大学大学院生活機構研究科）

吉田裕子（江戸川区中央健康サポートセンター）

野邊徹（帝京平成大学学生）

事務局からのお知らせ

1. 平成 25 年度会費納入のお願い

毎年会費の納入についてご協力頂きありがとうございます。今年度も同封の払込票、もしくは銀行振込にて平成 25 年度会費の納入をお願いいたします。

会費納入先

郵便振替：00100-8-41025

銀行口座：

みずほ銀行広尾支店 普通 1842122 健康社会学研究会 代表 松岡正純

ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900） 当座 ○一九店（ゼロイチキュウ店：店番 019）

0041025 ケンコウシャカイガクケンキュウカイ

2. 名簿作成にあたってのお願い

会員同士の交流の更なる促進を目的に、会員名簿を作成いたします。作成に伴い連絡先の変更の有無、および名簿への情報の公開可能な項目を、同封の健康社会学研究会連絡用紙にご記入の上、返信用封筒にてお知らせください。

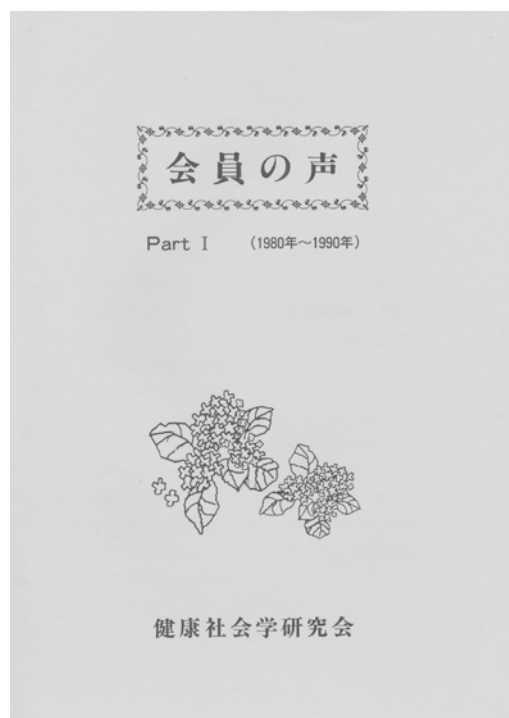
なお、お名前及びご所属、並びに専門（関心）領域は、原則名簿に掲載させていただきます。ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

3. 「（仮）会員の声」への原稿掲載のお願い

第1回保健社会学研究会（健康社会学研究会の前身）は、1980年10月29日に開催されました。3年前、小山修委員より30数年分にあたる研究会関連資料を事務局に寄贈して頂きました。段ボールにして約4箱分ほどです。昨年夏、運営委員数名で1日かけて整理を行いました。約20年前にも「会員の声（写真参照）」が作成され、研究会の軌跡がまとめられています。今一度これまでの足跡を概観できるような形にし、研究会、健康社会学、ヘルスプロモーションの総括を図っていくことができればと思います。2. の会員名簿と抱き合わせでお送りできればと考えています。

同封の「会員の声記入用紙」に原稿をお寄せください。返送の際には、返信用封筒をお使いください。

なおメール（h.morikawa@thu.ac.jp）での返信もお受けしています。



4. 事務局の移転のお知らせ

総会での承認は得られておりませんが、研究会活動の円滑な遂行のため、既に移転いたしております。ご了承の程、引き続きよろしくお願いいたします。

新事務局

住所：164-8530 東京都中野区中野 4-21-2 帝京平成大学現代ライフ学部人間文化学科

担当：森川 洋

Tel：03-5860-4586（直通）

Fax：03-5860-4945

E-mail：h.morikawa@thu.ac.jp